



# CHALLENGER

## [挑戦者たち] ⑩



furusato kasumi cram school

## ふるさと香住塾

「木を植えて、魚を殖やす」  
美しい故郷を残そうと立ち上がった人々。  
海の民、山の民が手をたずさえ、  
百年後の未来に向けた挑戦が始まった。

### 豊かな海の恵み

昭和10年、香住漁港。魚でいっぱいになったト口箱が何重にも積まれ、所狭しと並ぶ。沖に出た船は、わずかに1、2時間で魚倉を満杯にして帰ってきた。そこには豊かな海があった。

今では考えられない大きさの松葉ガニが山積みされる荷揚げ場。せわしなく作業が行われる港には、活気ある声飛び交った。人々はこの自然の恵みが、未来永劫続くものだと信じていた。

### 枯れ始めた海

「魚も貝も、昔とは比べものにならないほど少なくなった」

戦後の混乱から立ち直り、人々の生活が豊かになるのは逆に、海は枯れ始めていた。

海岸では護岸工事が進み、矢田川河口(香美町香住区)から眺める姿はすっかり変わっていた。住宅地からは

化学物質を含んだ生活排水が、海へと流れ込む。河川、海の水質汚染は深刻で、魚の産卵場所である海藻類が見る見るうちに減っていった。

「魚が棲めないようでは、人間が住むことなんてできない」。危機感を募らせる住民たち。

矢田川河口で生まれ育ってきた吉川邦夫も、そんな現状を憂う一人だった。子供の頃は魚が豊富に獲れ、美しかった香住の海。目の前で海藻や貝が死んでいく姿を目の当たりにして、否応なく心が傷んだ。

故郷を愛する気持ちは誰よりも強い。平成2年には「香住の自然を取り戻そう」と、自然保護実践ボランティアグループ「ふるさと香住塾」

旅籠 香住温泉郷

入湯

のんびりとした  
斗室は……  
こだわりの湯

湯の香にやそわれや  
たどりついた  
潮の香がとどく  
ここは 香住温泉郷

〒669-6564 兵庫県美方郡香美町香住区下浜291 tel.0796-36-1387 fax.0796-36-3381 URL.http://www.sadoya.net/



海岸沿いの森林は昔から保安林として守られてきた(香住東港周辺)



植樹場所に立てられている標柱



植樹場所には人魚旗がたなびく



苗木や添え木を運搬する植樹参加者



豊かな海の恵みに湧く昭和10年頃の香住漁港

## 森が海を育てる

の設立に加わる。

「今まで故郷から受けてきた恵みに恩返しをしたい」

しかしながら、そんな想いとは裏腹に海の荒廃は進む。また一人、また一人と廃業していく知り合いの漁師。はがゆさが心を浸食していった。

「ふるさと香住塾」を立ち上げて、6回目の春が過ぎようとしていた。まちづくりの視察研修、講演会を開くなどして順調に見えた活動も、月日が立つと情熱も冷め始め、塾から去っていくものが増え始めた。

海をきれいにしようとした海岸の清掃活動。海岸はきれいになったが、あの資源豊かな海が本当に戻るかとかと誰もが疑問に思った。

この時、3代目の塾長になっていた吉川邦夫は頭を抱えた。はつきりとした目的を持たない現状では、塾の存在自体が危ういと考えていた。

そんな時、ラジオから聴こえてくる話に心が震えた。

それは「木を植えて、魚を殖やそう」という内容の番組。吉川は「ハッ」と思った。「魚を殖やすためには、山が豊かでなければならぬ」と、語りかけてくるラジオ。3代続く梨農家、山をずっと見続けてきた者として、

目からウロコが落ちる思いだった。

ブナやトチなどの広葉樹が生い茂る山。木の実が動物を育て、落ちた葉は川底で朽ちてプランクトンのエサとなり、そこに小魚が集まる。やがて小魚を追って大きな魚が殖える。

それが「自然の摂理」。森林がもつ自然環境保全機能に着目して、魚を殖やすとは思っても寄らない発想だった。海の自然を取り戻すには、豊かな山の復元が大事だと悟った。

「この話を聞いて、海岸沿いにある魚付保安林を思い出しました。魚付保安林とは、明治30年に国が制定した旧森林法の保安林。森が海を豊かにするという考えは、昔からあったんです。私を含め町の人も、魚付保安林は知っていました。が、名前の意味など考えなかった。先人たちは、ずっと昔から海を守る術を知っていたんですよ」と吉川邦夫は振り返る。

昔のような海に戻るには、永い年月を必要とする活動。地球規模の大きな目的に身震いがした。「これしかない」と思った。ふるさと香住塾は、新たな一歩を踏み出すことになる。

## 本塾の目的

「百年かかってもいいから、自然を取り戻そう」。吉川邦夫を旗振り役に「ふるさと香住塾」のメンバーたち

**豊岡店**  
豊岡市中陰589-1  
TEL0796-24-9595

**和田山店**  
朝来市和田山町土田339-5  
TEL079-670-2525

**八鹿店**  
養父市八鹿町下小田103-1  
TEL079-662-6200

■営業時間 PM5:00~AM0:00

**おかわり** **おかわり** **おかわり**

**好きたす っぽん**

新メニューを取り揃えてお待ちしております

**ご家族連れも気軽に楽しめる!**

自然の旨みをギュッと詰めて! 特製デザートもいっぱい!

# CHALLENGER ⑩

[挑戦者たち]

## ふるさと香住塾



植樹作業の様子(香美町小代区秋岡)  
添え木に広葉樹の苗木をくくりつける

の挑戦が始まった。  
町の人たちの賛同を得るには、生の声を聴いてもらう以外にない。その年の秋、あのラジオ番組に出演していた北海道指導漁業協同組合連合会の柳沼氏を招き、早速講演会を開く。結果は賞賛の嵐だった。次の世代に明るい未来をもたらす事業に、皆やりがいを感じた。「ふるさと香住塾」は、かつての輝きを取り戻す。

そこからは行動あるのみ。まずは山の実態調査から活動は始まった。矢田川水系の山々を調べるメンバーたち。その光景にがく然とした。そこにはスギなどの針葉樹が整然と植えられた、人工林の山々が並ぶ。地表の裸地化が進んでいた。高度経済成長長期、木材の需要が高まると、広葉樹の森は次々に伐採された。その跡地は、林業効率のよいスギやヒノキの人工植林地に変わっていく。崩れ落ちる山の生態系。人々は目先の利益に心を奪われた。そこへ自由化の波が襲う。安い輸入材に押され、採算がとれなくなつた国産木材。やがて、人工林は放置された。調査した山のほとんどが、人出が入らず荒れ果てていた。さらに悲しい現実を目にする。それは小学生が描いた紅葉の絵を目にした時だった。キャンパスには緑一色

に塗られた森が描かれていた。

「豊かな山は紅葉を見れば分かります。広葉樹が色とりどりに紅葉した山こそ、本当の山の姿。今の子供は本物を知らない。子孫に豊かな山を残したいと心から思いました」  
揺るぎない決意の下、いよいよ植樹事業がスタートする。

### 海の民、山の民

平成9年、秋。メンバーの呼びかけに百人を超える参加者が集まった。植樹場所は、矢田川上流の美方町秋岡地区(現香美町小代区)。1年がかりで探した場所だった。

場所探しは難航を極め、断られる日々が続いた。「木を植えて、魚を殖やす、そんな素晴らしい事業に協力できるなら喜んで」と、秋岡の人々は使われなくなった但馬牛の放牧地を快く提供。さらに、自分たちも参加させて欲しいと願い出てくれた。こうして「ふるさと香住塾」と「秋岡新風会」合同の植樹作業が始まる。ブナ・トチなどの広葉樹・約400本を、愛情込めて植えていく参加者。ここで塾長の吉川邦夫は、ある仕掛けを考えていた。植樹は何十年と続けていかなければ意味のない活動。参加者に名札を渡し、植えた木に縛るよう指示した。

### 朝来市の新名所

新しい和田山・竹田家具です。遊びにいらして下さいませ。



和田山**竹田家具** ホームページアドレス <http://kinokagu.com/>  
〒669-5261 兵庫県朝来市和田山町枚田756 TEL 079-672-3456



参加者は苗木に自分の名札をつけ、木に愛情を込める



「少しずつだが植樹の効果は出てきている」と塾長の吉川邦夫



植樹場所の小代区秋岡の人々を招待した「地引綱交流会」

「自分で育てた植物は、子供のよ  
うに可愛いもの。自分の木だと思え  
ば、来年も来てくれる。これは梨農  
家の経験から生まれた智慧です」  
このアイデアはすぐに真価を發揮  
する。秋岡地区は但馬でも有数の豪  
雪地帯。次の年、雪解けで苗木が流  
されるといふ事故が発生したが、落  
胆した者はいなかったという。  
誰もが自分の可愛い苗木を植え  
直した。そして、次の年も、また次の  
年も、植樹作業に参加した。  
水面に投げた小石の波紋が瞬く  
間に広がって行くように、参加者は  
年を追うごとに増えていった。  
中でも一番うれしかったのは、漁  
業関係者が参加してくれたことだ  
という。漁師は網を打つ手を鎌に変え  
て、山の民と汗を流した。植樹の後  
は交流会。香住の海で獲れた魚介を  
味わってもらおうと、今度は海の民

が海鮮バーベキューでもてなす。  
「山と川、そして海はひとつ」。そ  
う実感する人々の表情は、充実感と  
屈託のない笑顔で包まれていた。  
**百年後の未来へ**  
今年の秋で9年目を迎える植樹事  
業。ここまで年間400本ずつ広葉  
樹を植えてきた。苗木が成木になる  
のは、約30年後。根気のいる作業は  
まだまだ続く。  
「最近、クマなどの獣が里に下りて  
くるのは、山にエサがないから。今年  
は柿やドングリといった広葉樹を植  
えたいと思っています」。塾長の情熱  
は衰えることを知らない。  
一昨年からは、海の現状を知って  
もらおうと、秋岡地区の人々を地曳  
き網に招待した。植樹事業がここま  
で続けてこられたのも、海と山の人  
間がお互いの立場を理解し、心をひ

とつにしてきたからだといえる。  
「百年かかって、百年前の海を取り  
戻そう」をスローガンに始まった、「ふ  
るさと香住塾」の遙かなる挑戦。  
海岸沿いに海藻類が増えるなど、  
植樹の効果は少しずつであるが、形  
になつて現れてきた。だが、広大な海  
の自然環境を取り戻すには、やはり  
百年後まで待たなければならぬ。  
「私たちのグループが解散できる  
ことが目標。解散するということは、  
モノを大事にする社会、豊かな自然  
あふれる地球になつていくというこ  
とですから」と、塾長は最後に言っ  
た。遠い未来を見据える優しい目。  
その瞳の奥には、紅葉美しい山々を  
駆け回る子どもたちの姿が見えた。  
協力・ふるさと香住塾、香美町役場  
■今年の植樹事業は11月中旬予定。  
問い合わせは事務局(香美町役場内)  
まで(0796・36・1111)

## ニュースタイル! ブルーリッジウェディング

ブルーリッジウェディングは提案のスタイルを一新し、ホテル施設料・料理や衣装・美容などをアイテムごとにつールアルバムでラインアップ。ブライダルのあらゆる情報をご提案いたします。



ミニブライダルフェア  
Sep tember 2005  
9月18日(日) 11:00~16:00  
●会場コーディネート展示  
●チャペル模擬挙式(13:30~14:30)  
●ウェディングドレス試着&撮影会

オリックスグループ  
**ブルーリッジホテル**  
神 鍋 高 原  
〒669-5372兵庫県豊岡市日高町栗栖野55  
婚礼受付 Tel.(0796) 45-1400  
<http://www.orix.co.jp/blridge/>

GRAND CHAPEL  
JURARE

感動を呼ぶクラシカルテイストのチャペル、『ジュラール』